

科目名	疫学(週2回)			ナンバリング	BSS651	授業形態	講義
対象学年	3 年	開講時期	前期前半	科目分類	選択	単位数	2 単位
代表教員	後藤恭一	担当教員					

授業の概要	エビデンスベースドの考えに則り、医学、保健学、看護学における疫学的思考および方法を理解し、人間集団の疾病および健康現象の発生状況を把握し、それに影響を及ぼす要因や条件を包括的に探り、地域予防活動に応用するための基礎的能力を身につける。また、記述疫学、分析疫学、介入疫学と疫学の理論を身につけ、疫学的因果関係の推定方法とその確認方法を学修する。さらに、事例を基に、疫学の理解を深め、保健、医療、看護学の実践・発展に応用する。						
到達目標	エビデンスベースドの考えに則り、医学、保健学、看護学における疫学的思考および方法を理解し、人間集団の疾病および健康現象の発生状況を把握し、それに影響を及ぼす要因や条件を包括的に探り、地域予防活動に応用するための基礎的能力を身につける。また、記述疫学、分析疫学、介入疫学と疫学の理論を身につける。また、疫学の理論を発展させて、疫学的因果関係の推定方法とその確認方法を学修する。さらに、事例を基に、疫学の理解を深め、保健、医療、看護学の実践・発展に応用することが出来る。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	身近な健康問題や健康に関する報道の多くは疫学調査・研究から見出されたものである。日頃から新聞、報道等から健康に関する情報を収集し、クリティークする習慣を身に着けて欲しい。						
ディプロマポリシーとの 関連	【看護学部看護学科のディプロマポリシー】						
		1. 広い視野と豊かな教養に基づき、看護の担い手としてふさわしいヒューマニズムと倫理観を身につけている。					
	○	2. EBN(Evidence Based Nursing: 根拠に基づいた看護)に基づき、自律的に看護を実践することができる。					
		3. 生命の尊厳と人権を尊重する姿勢を身につけ、多職種と連携・協働することができる。					
	○	4. 地域の健康課題に関するニーズをとらえ、災害時の援助活動も含め、積極的に地域貢献できる能力と態度を身につけている。					
		5. 看護専門職として科学と看護の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的学修ができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)	○	○					50%
小テスト・授業内レポート			○	○	○	○	25%
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加			○	○	○	○	25%

課題、評価のフィードバック	
---------------	--

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	疫学の概論	・疫学の語源と歴史上の疫学の業績を学ぶ ・疫学的な考え方と疫学が扱う分野 ・疫学の概要	
	第2回	疫学研究の正しい理論と方法	・疫学的基本的事項 ・病気に「なった」と、病気の「状態である」との区別 ・治 験	
	第3回	疫学で用いられる指標と疫学調査・研究	・頻度の測定と比較 ・調査対象とする集団の定義 ・疾病発生原因追及のための手順	
	第4回	潜伏期間が短い病気の疫学調査	・潜伏期間とその内容 ・食中毒事件とは何か ・疾病の発生状況の把握かた原因追及までの具体的手順 ・潜伏期間から見た食中毒事件の分類	
	第5回	記述疫学	・人(だれ)、場所(どこで)、時(いつ)を記述する疫学 ・病気のプロフィールを調べる ・仮説の設定方法	
	第6回	記述疫学の実例	興味のある疾患に関する記述疫学特性を調べる	グループワーク
	第7回	潜伏期間が長い病気の疫学調査	・延べ人数 ・分析疫学(横断研究、コホート研究、症例対照研究)	
	第8回	分析疫学の実例	国内外における代表的な症例対照研究やコホート研究を調べる	グループワーク
	第9回	介入疫学	・介入研究の定義と特徴 ・疫学研究と倫理、研究参加者に関する留意事項(インフォームドコンセント) ・無作為割り付けとブラインド法	
	第10回	因果関係、バイアスと交絡	・エビデンスを見誤らないために ・選択バイアス ・情報バイアス ・交絡	
	第11回	スクリーニング	・定義・目的 ・スクリーニング妥当性の検討	
	第12回	情報収集方法	・情報の種類 ・調査票などによる調査 ・調査票の作成 ・碩学データの性質	
	第13回	調査票の作成の実際	・興味のある疾患に関する質問票の作成 ・質問票調査の実施	グループワーク
	第14回	情報処理	・データの入力・コーディング・欠損値の処理 ・記述統計量の算出とグラフ化(分布) ・解析と評価	グループワーク
	第15回	情報処理の実際	第13回で作成した質問票を用いて調査を実施し、収集したデータを解析してみる	グループワーク
	試験	期末試験を実施する。		
授業の進め方		講義で使用するスライド資料は、manab@IMUからPDFファイルとしてダウンロードすることができる。		
授業外学習の指示		予習(資料の閲覧)と復習(レポート作成)を必ず行うこと。 (授業外学習時間: 毎週 60 分)		

教科書	はじめてて学ぶやさしい疫学 南江堂
参考書	
参考URLなど	
その他	